

令和2年度横須賀美術館運営評価の方法について

二次評価を依頼させていただいた際にいただいたご意見です。

<令和2年度 横須賀美術館運営評価の方法についてのご意見>

・今年度はコロナ禍の状況下、休館や計画にのっとり活動の自粛等があり、項目によっては達成目標の評価がF(判定不能)では、達成目標がこれまでに積み上げてきた課題を前提に設定されているだけに、実施目標の評価そのものが難しくなる。そこで、成果物は美術館の今後の管理運営の問題なり課題なりとして、別枠での記載が必要になるのではないだろうか。いずれにしても、今回の評価委員会としての検討課題になる。(小林委員長)

・有事の際の評価基準は、それぞれの価値観に左右されるため、難しい評価には違いないが、今後も自然災害等の影響の可能性は高くなる。このような状況で「何をどのように対応したのか」という記録のためにも、基本は変えず「F」を適用した今回の評価方法でいいのではないかと思う。(菊池委員)

・市民や地元事業者にとって、美術館単体での収支・効率的運営とか、来館者満足度とかの評価基準以外にも、例えば「市内周辺施設との回遊性(美術館だけで終わるのか、美術館をフックに市内周辺施設の回遊による経済効果があったのか)」という評価基準があっても良いと思います。美術館目的で市外から来館されるお客様が、周辺に与える経済効果は非常に大きいと思われるため、「点ではなく面」でも存在価値は十分にあると考えます。(濱田委員)

・評価方法については問題なしと思います。(中村委員)